

2010年3月期 第3四半期(累計期間) 決算説明資料

1 連結業績について

- 1) 連結業績概要(累計期間) …P. 3
- 2) 連結業績概要(四半期) …P. 4
- 3) 売上高の変動要因 …P. 5
- 4) 営業利益の変動要因 …P. 6
- 5) 市場別売上高 …P. 7
- 6) 四半期毎の売上高 …P. 14
- 7) 地域別売上高 …P. 15
- 8) 設備投資他 …P. 16
- 9) 損益計算書 …P. 17



2 市場動向について

- 1) 中国市場 …P. 18
- 2) リテール市場 …P. 19

3 2010年3月期 業績予想

- 1) 2010年3月期 業績予想 …P. 20
- 2) 市場別売上高 …P. 21
- 3) 四半期毎の売上高 …P. 22
- 4) 四半期毎の営業利益 …P. 23

4 その他の情報

- 1) 株主還元策 …P. 24
- 2) 事業体制の整備 …P. 25

当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。

当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、投資判断を決定する場合には、本資料の将来の見通しのみに依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。

また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。

セグメントと市場の関連性

セグメント	関連性	市 場	納入先	主な商品及び製品
貨幣処理機 及び貨幣端末機		 金 融	金融機関、 生保・損保会社、証券会社、 コンピューターメーカー他	オープン出納システム 窓口用現金入出金機他
		 海 外	海外の金融機関、 警備輸送会社、カジノ、 コンピューターメーカー他	窓口用紙幣入出金機 紙幣整理機 ATM用ユニット他
		 流通・交通	百貨店、スーパーマーケット、 専門店、警備保障会社、 鉄道会社他	硬貨・紙幣レジつり銭機 売上金入金機他
自動販売機 及び 自動サービス機器		 その他	官公庁、病院、 レジャー施設、一般企業他	投票用紙分類機 病院向け診療費支払機 社員食堂システム他
		 自動販売機	国内外たばこメーカー、 たばこ小売店、 鉄道会社他	たばこ販売機 券売機 コインロッカー他
その他の商品 及び製品		 遊 技	パチンコホール他	プリペイドカードシステム 景品払出機 紙幣搬送システム他

連結業績概要

前年同期比（累計期間）

売上高

遊技市場向け機器の販売は好調であったものの、金融市場や流通市場、海外市場が低調で、前年同期に比べ減少。

利益

設備投資抑制や経費削減などに取り組んだものの、前年同期に比べ減少。

（百万円）	2009年3月期 第3四半期（累計）	2010年3月期 第3四半期（累計）	前年同期比
売上高	109,045	96,320	▲11.7%
うち 保守売上高	24,047 (22.1%)	23,566 (24.5%)	▲2.0%
営業利益	8,940 (8.2%)	5,185 (5.4%)	▲42.0%
経常利益	8,709 (8.0%)	6,359 (6.6%)	▲27.0%
四半期純利益	5,667 (5.2%)	3,626 (3.8%)	▲35.9%

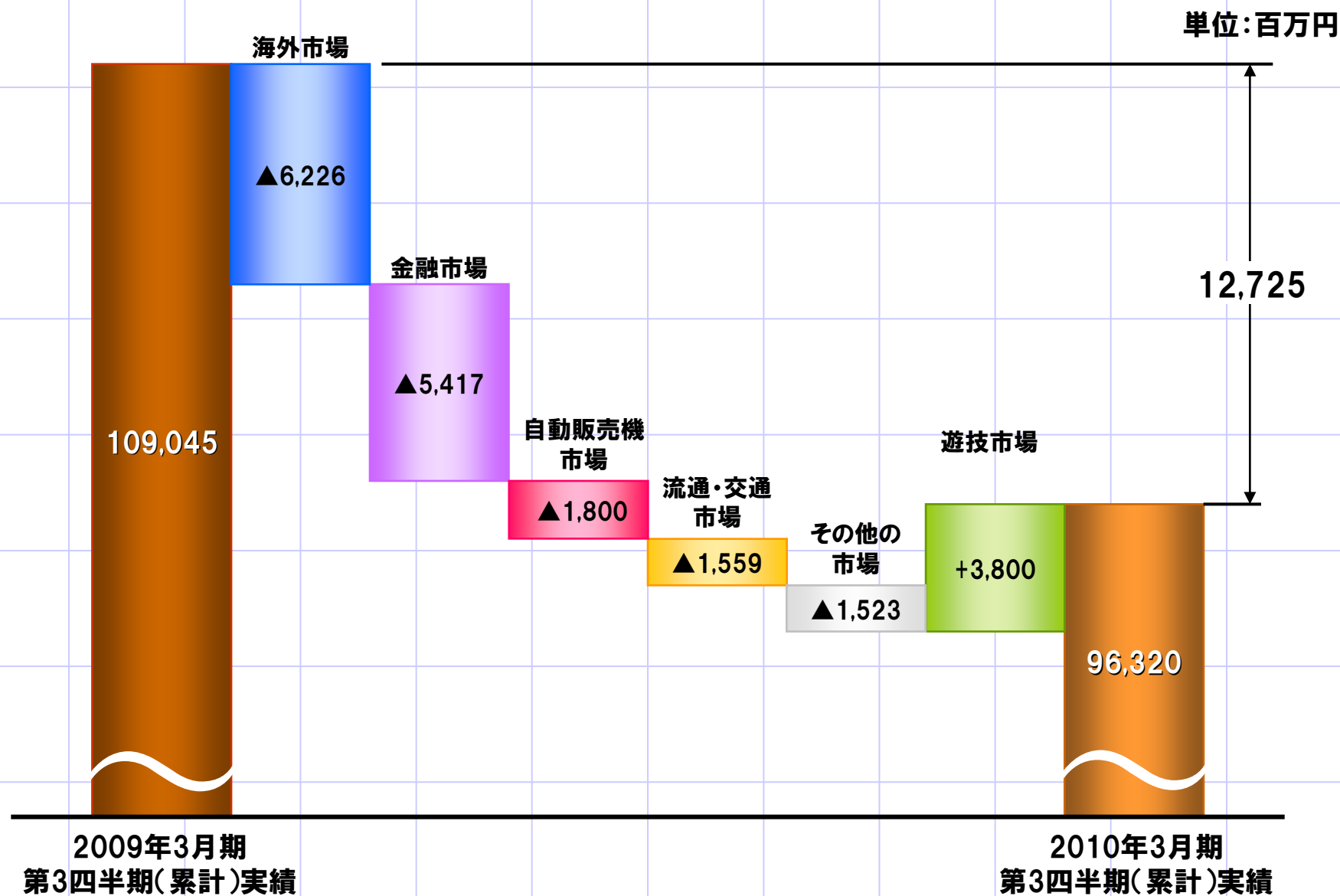
前年同期比

2Q比

売上高は減少しているが、
設備投資抑制や経費削減などへの取り組みが営業利益率向上に寄与

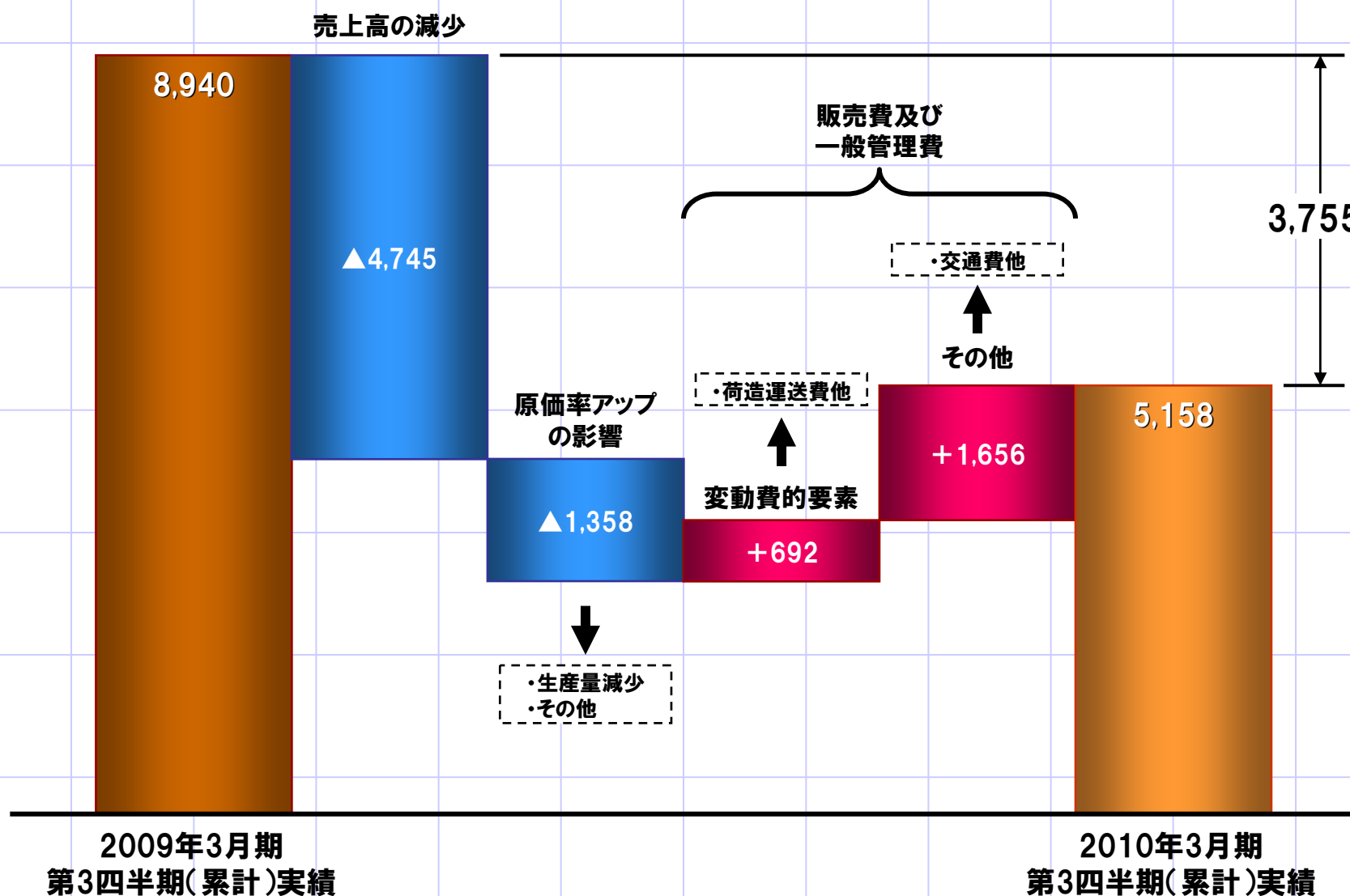
(百万円)	2009年3月期 第3四半期	2010年3月期 第3四半期	前年同期比	2010年3月期 第2四半期	2010年3月期 第2四半期比
売上高	34,223	32,181	▲6.0%	35,169	▲8.5%
うち 保守売上高	7,673 (22.4%)	7,922 (24.6%)	+3.2%	7,787 (22.1%)	+1.7%
営業利益	2,092 (6.1%)	2,542 (7.9%)	+21.5%	1,883 (5.4%)	+35.0%
経常利益	1,463 (4.3%)	2,592 (8.1%)	+77.2%	2,183 (6.2%)	+18.7%
四半期純利益	1,006 (2.9%)	1,403 (4.4%)	+39.5%	1,551 (4.3%)	▲9.5%

売上高の変動要因



営業利益の変動要因

単位: 百万円

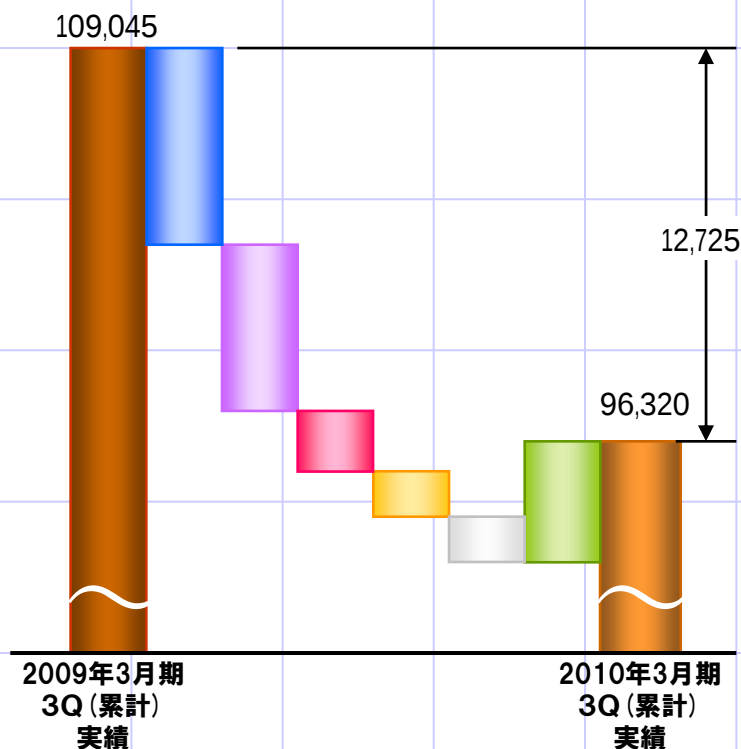


市場別・セグメント別売上高

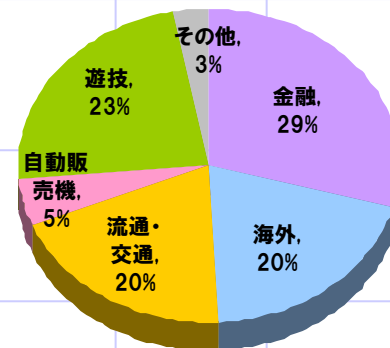
(百万円)

市 場	2009年3月期 第3四半期(累計)	2010年3月期 第3四半期(累計)	前年同期比
金 融	33,681	28,264	▲5,417 (▲16.1%)
海 外	25,371	19,145	▲6,226 (▲24.5%)
流通・交通	20,509	18,950	▲1,559 (▲ 7.6%)
自動販売機	6,340	4,540	▲1,800 (▲28.4%)
遊 技	18,744	22,544	+3,800 (+ 20.3%)
その他	4,400	2,877	▲1,523 (▲34.6%)
合 計	109,045	96,320	▲12,725 (▲11.7%)

市場別売上高の変動



市場別売上高の構成比



(百万円)

セグメント	2009年3月期 第3四半期(累計)	2010年3月期 第3四半期(累計)	前年同期比
貨幣処理機 及び貨幣端末機	64,344	55,510	▲8,834 (▲13.7%)
自動販売機 及び自動サービス機器	28,374	28,719	+ 345 (+ 1.2%)
その他の商品 及び製品	16,327	12,091	▲4,236 (▲25.9%)

● 基幹商品の販売が減少

業務厳正化・効率化に対するニーズにより、主力機種であるオープン出納システムは比較的堅調に推移したものの、OEM商品である窓口用入出金システムのユニットの販売は、前年同期に比べ大きく減少。

主要製品の状況(前年同期比)



オープン出納システム
WAVEシリーズ



窓口用入出金
システムのユニット

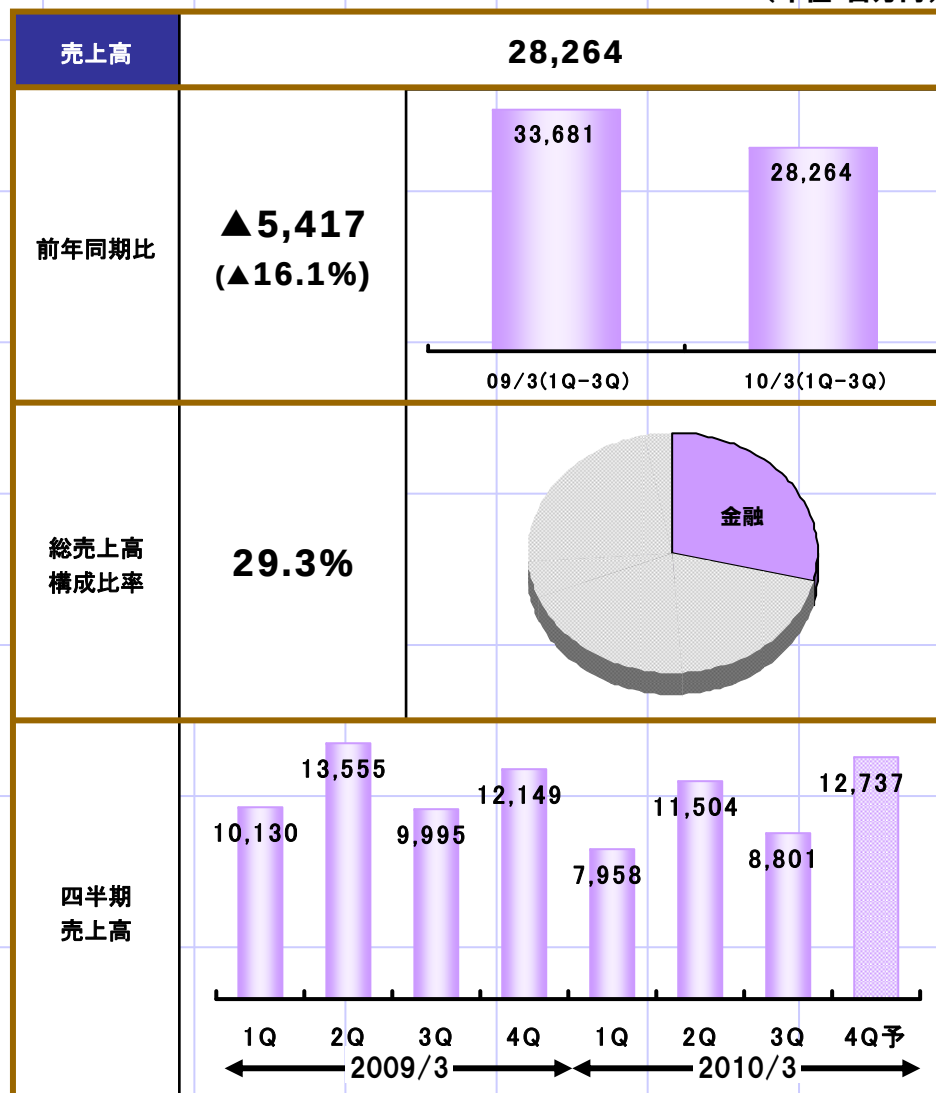


オープン出納システム
WAVE Cシリーズ



自動精査現金バス
BWシリーズ

(単位:百万円)



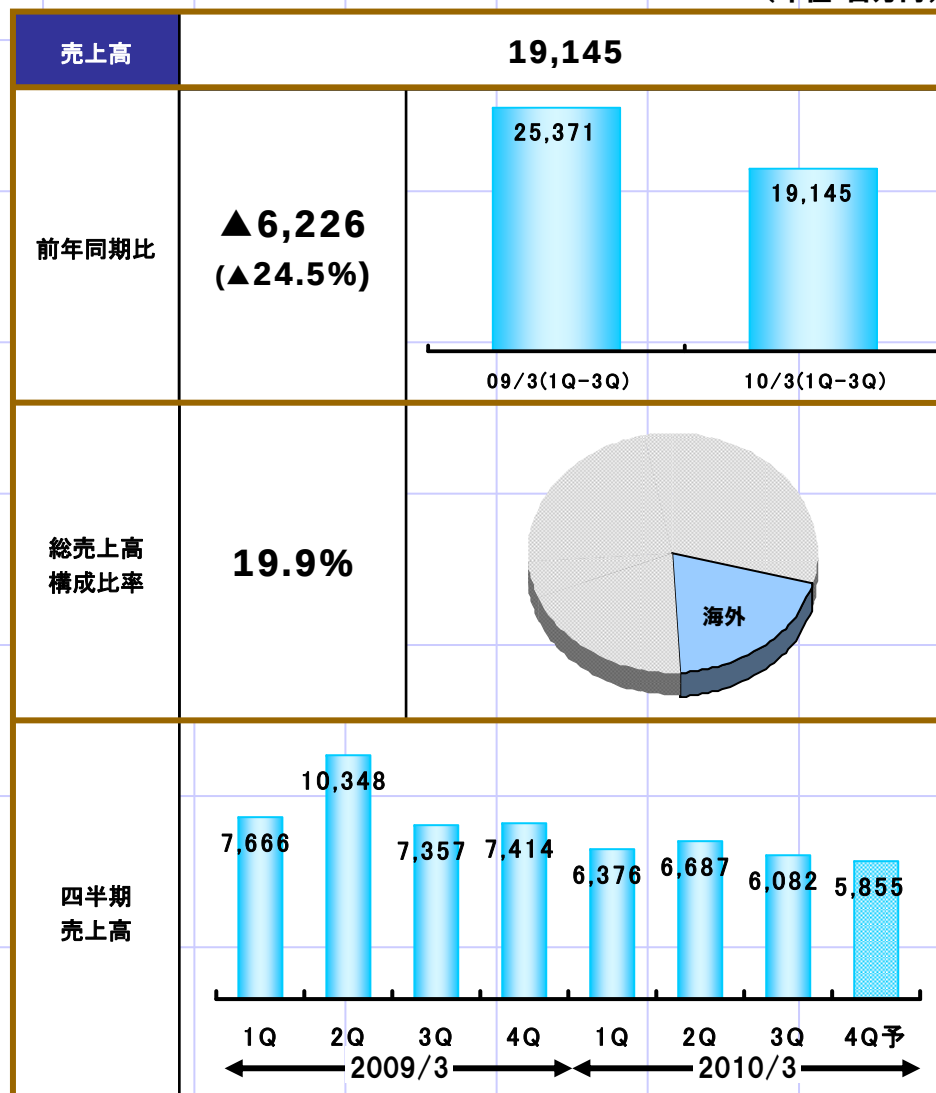
●OEM関連商品の需要が減少

設備投資の抑制傾向が強く、OEM商品である
ATM用紙幣入金ユニット、窓口用紙幣入出金機、
紙幣整理機等の販売が大きく減少。

主要製品の状況(前年同期比)



(単位:百万円)



●主要製品の販売が低調

交通機関向けの小型入出金管理機やOEM商品である警備輸送会社向け店舗入金機などは好調でしたが、流通業界全体の業績悪化の影響で新規出店の抑制傾向がみられ、主要製品であるレジ釣銭機や小型入金機等の販売が低調。

主要製品の状況(前年同期比)



レジ釣り銭機
RT/RADシリーズ



小型入金機
DSSシリーズ

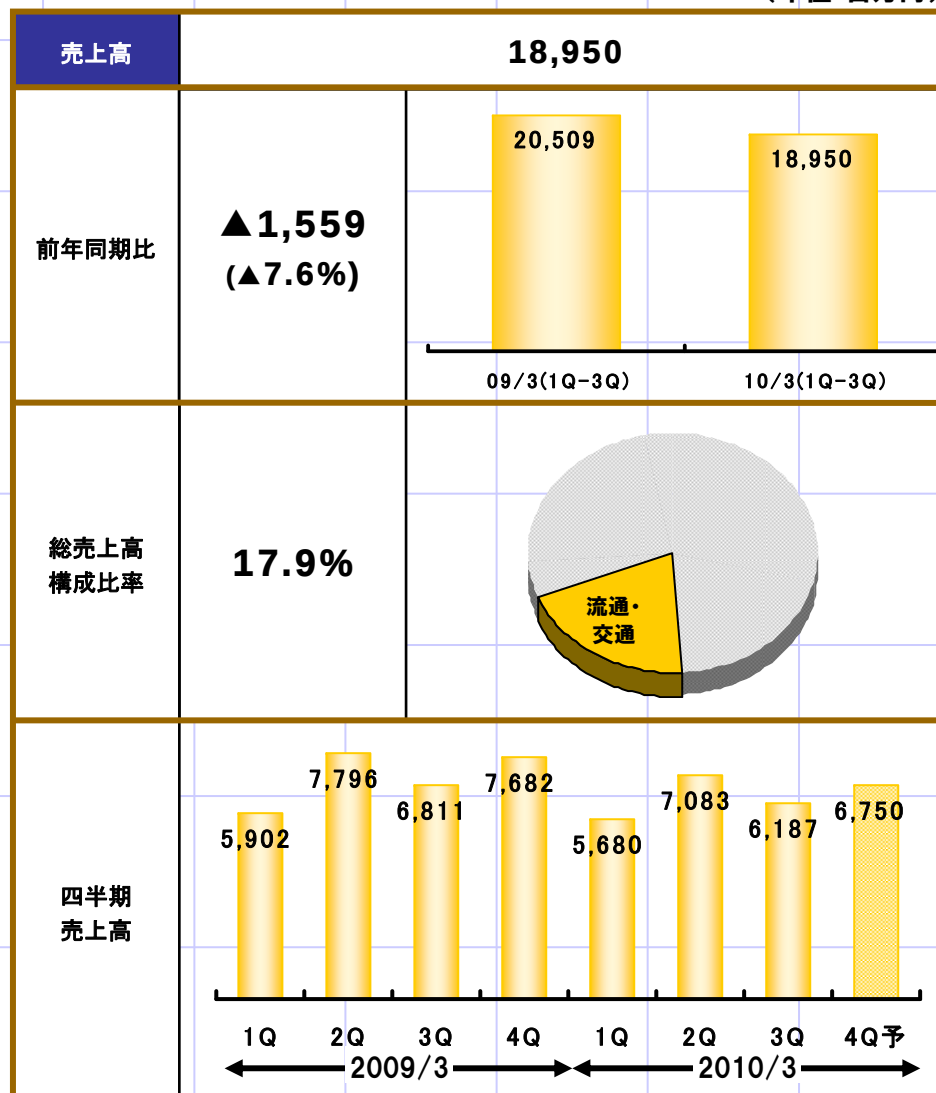


小型入出金管理機
RHシリーズ



小型現金入出金機
DSRシリーズ

(単位:百万円)



●たばこ販売機の需要が激減

たばこの販売が自動販売機から店頭での対面販売にシフトしたことにより、たばこ販売機の需要が激減。

主要製品の状況(前年同期比)



たばこ販売機
TNRシリーズ

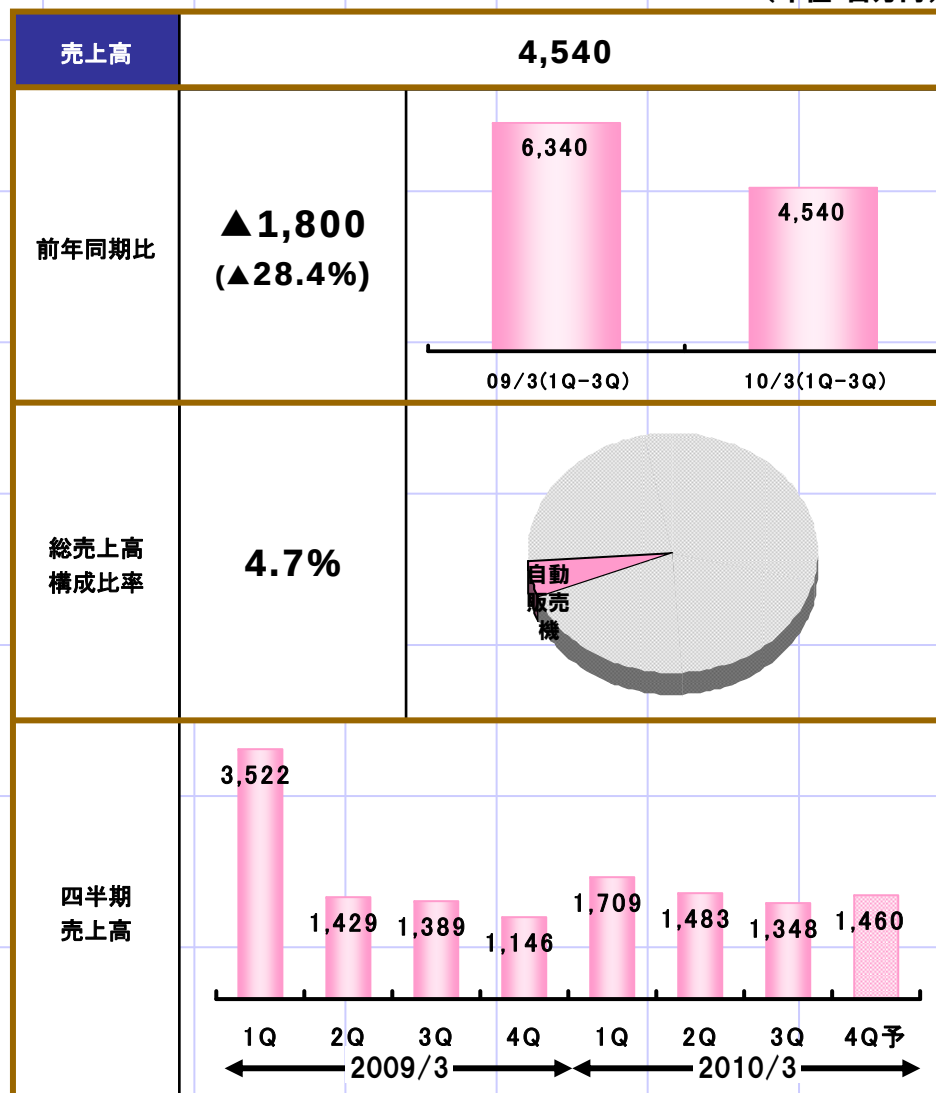


印刷式同時券売機
VTシリーズ



ターミナルロッカー
LTHシリーズ

(単位:百万円)



●カードシステムの販売が堅調

パチンコ店における人気遊技台の導入や、従来に比べてプレイ代金を低く抑えた低貸玉営業の普及により市場の活性化傾向が見られ、カードシステムの販売は順調に推移。

さらに、クリエイションカード(株)が業績向上に寄与。

主要製品の状況(前年同期比)

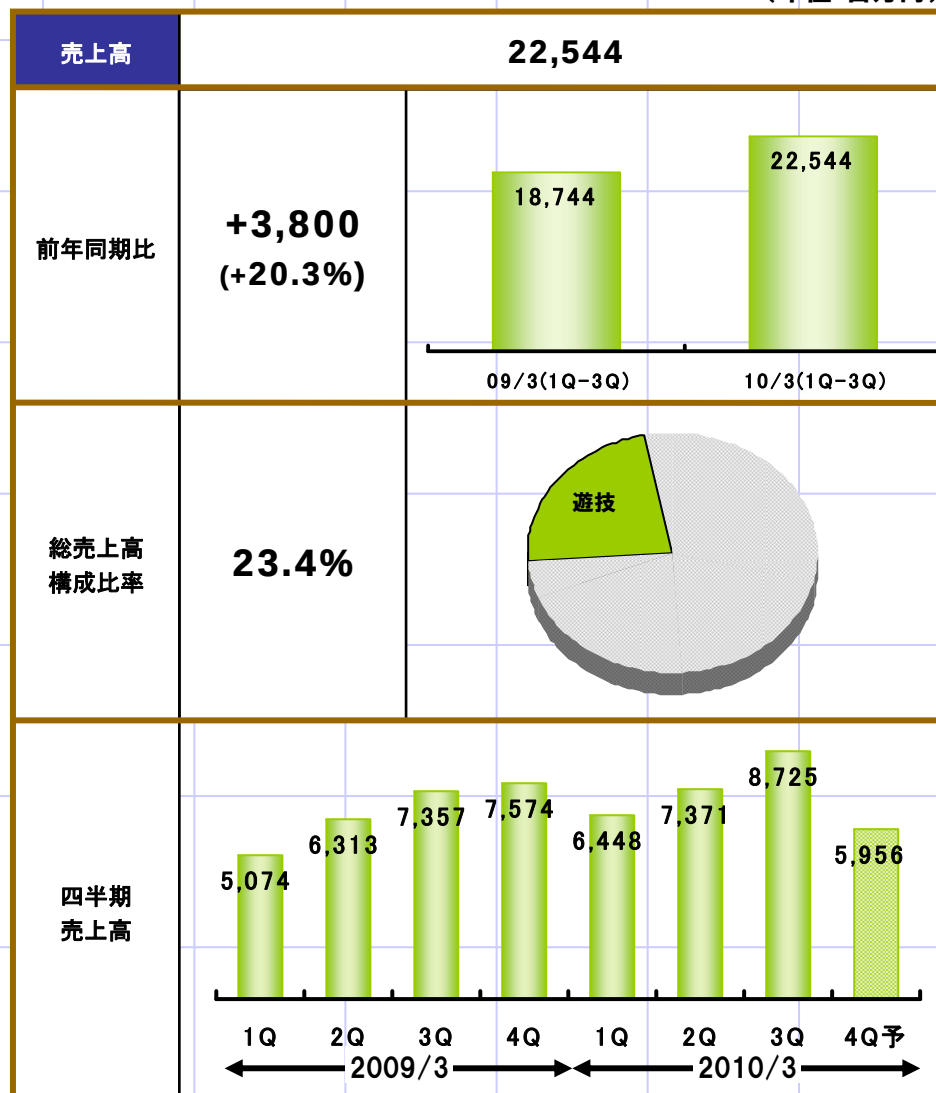
デビット券売機
JCHシリーズ

各台計数ユニット
JCTシリーズ

景品管理機
JKシリーズ

紙幣搬送システム

(単位:百万円)



●各分野で設備投資抑制が継続

衆議院議員選挙の施行に伴い、選挙関連製品の販売が堅調に推移。

一般企業での設備投資抑制により、社員食堂システム等の販売は低調。

主要製品の状況(前年同期比)

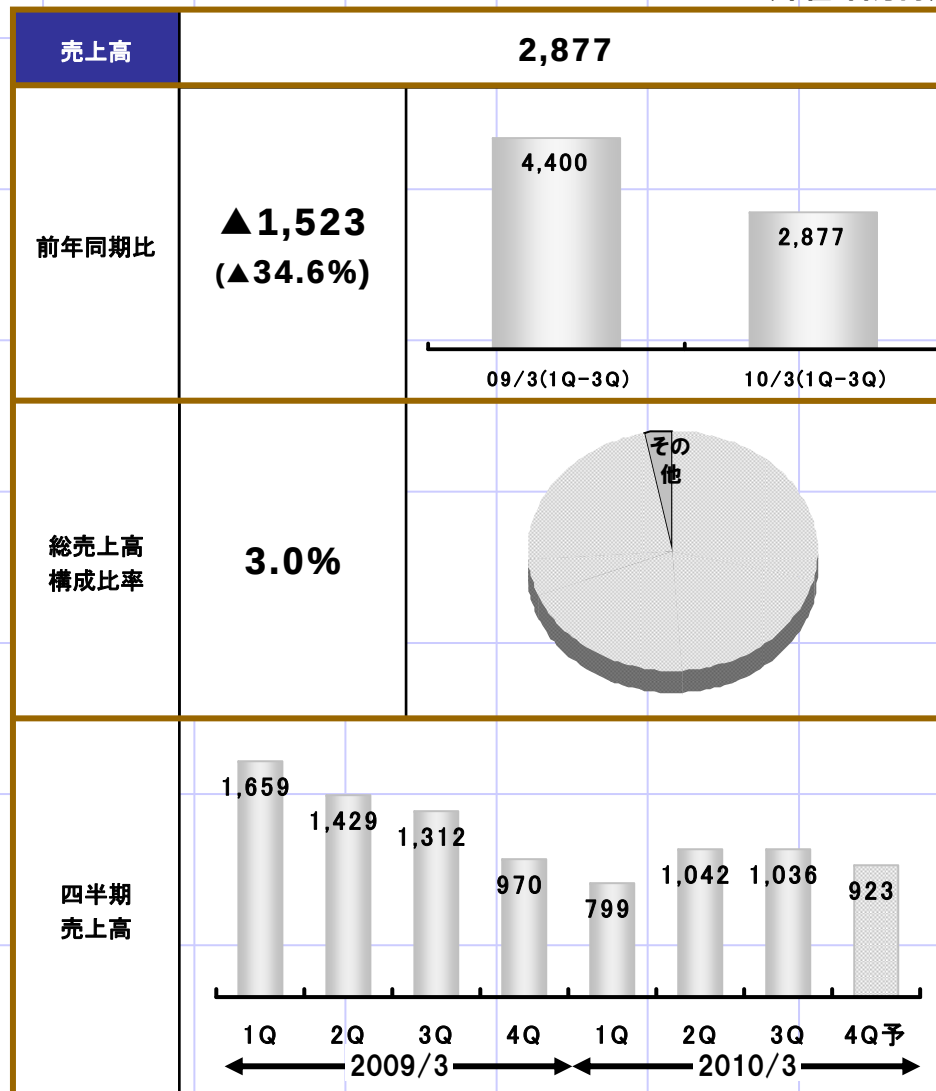


投票用紙分類機
GTSシリーズ

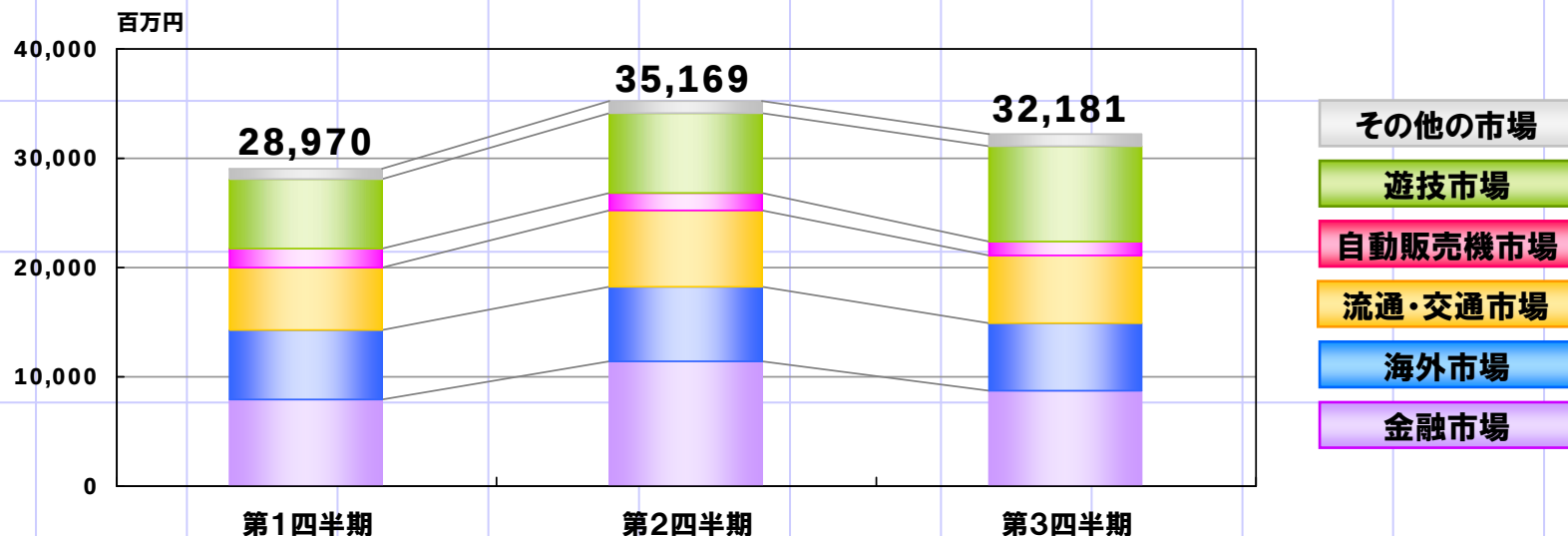


オートレジスター
PSAシリーズ

(単位:百万円)



四半期毎の市場別売上高



2010年3月期	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期(累計)		
				実績	計画	差異
金 融	7,958	11,504	8,802	28,264	28,762	▲ 498
海 外	6,376	6,686	6,082	19,145	19,863	▲ 718
金融機関 合計	14,334	18,190	14,884	47,409	48,625	▲1,216
流通・交通	5,680	7,083	6,187	18,950	18,563	+ 387
自動販売機	1,709	1,483	1,348	4,540	4,492	+ 48
遊 技	6,448	7,371	8,725	22,544	22,619	▲ 75
その他	799	1,042	1,036	2,877	2,641	+ 236
合 計	28,970	35,169	32,181	96,320	96,940	▲ 620

地域別売上高

(単位:百万円)

国内外売上高	2009年3月期 第3四半期 (累計)	2010年3月期 第3四半期 (累計)	前年同期比
国内	83,674 76.7%	77,175 80.1%	▲6,499 ▲7.8%
海外	25,371 23.3%	19,145 19.9%	▲6,226 ▲24.5%
合計	109,045 100.0%	96,320 100.0%	▲12,725 ▲11.7%

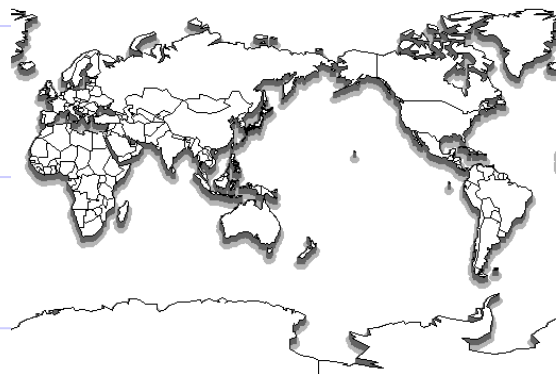


(単位:百万円)

※下段は売上高構成比率

海外 地域別売上高	2009年3月期 第3四半期 (累計)	2010年3月期 第3四半期 (累計)	前年同期比
アメリカ	4,779 18.08%	3,556 18.6%	▲1,223 ▲25.6%
ヨーロッパ	5,906 23.3%	5,798 30.3%	▲108 ▲1.8%
中国・台湾・韓国他	1,302 5.1%	1,775 9.8%	+473 +36.3%
アジア・オセアニア	1,029 4.1%	1,149 5.5%	+120 +11.7%
OEM	12,355 48.7%	6,867 35.9%	▲5,488 ▲44.4%
合 計	25,371 100.0%	19,145 100.0%	▲6,226 ▲24.5%

※下段は売上高構成比率



設備投資他

(単位:百万円)

	2009年3月期 第3四半期	2010年3月期 第3四半期	前年同期比	四半期毎の推移
設備投資額	5,996	4,296	▲1,727 ▲28.8%	1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q予 ← 2009/3 → ← 2010/3 →
減価償却費	5,282	5,939	+657 +12.4%	1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q予 ← 2009/3 → ← 2010/3 →
研究開発 投資額	6,775	6,775	± 0 0%	1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q予 ← 2009/3 → ← 2010/3 →

損益計算書

(単位:百万円)

(百万円)	2009年3月期 第3四半期 累計期間	百分比 (%)	2010年3月期 第3四半期 累計期間	百分比 (%)	増 減
売上高	109,045	100.0	96,320	100.0	▲12,725
売上原価	68,391	62.7	61,751	64.1	▲6,640
販管費	31,713	29.1	29,383	30.5	▲2,330 ①
営業利益	8,940	8.2	5,185	5.4	▲4,145
営業外収益	1,296	1.0	1,424	1.5	+128 ②
営業外費用	1,327	1.2	250	0.3	▲1,077
経常利益	8,709	8.0	6,359	6.6	▲2,350
特別利益	476	0.4	452	0.4	▲24
特別損失	479	0.4	712	0.7	▲233 ③
税金等調整前 四半期純利益	8,705	8.0	6,098	6.3	▲2,607
法人税等調整額	2,998	2.7	2,472	2.5	▲526
四半期純利益	5,667	5.2	3,626	3.8	▲2,041

①販管費 :コスト削減活動の成果により低下。ただし、売上高減少により比率はUP

②営業外収益 : 保険返戻金(487百万円)、受取配当金(218百万円)などが発生

③特別損失 : 投資有価証券の評価損(263百万円)や
設備機器などの固定資産除却損(192百万円)などが発生

●中国市場の動向

現 状

需要

ATM市場の拡大に伴う正損・整理業務向けに紙幣整理機の需要拡大。

製品



紙幣整理機【UWシリーズ】
・大規模店、
・キャッシュセンター向け



紙幣整理機【USFシリーズ】
・小規模店向け

実績

4大銀行(農業・建設・工商・中国)+郵貯銀行を中心に納入

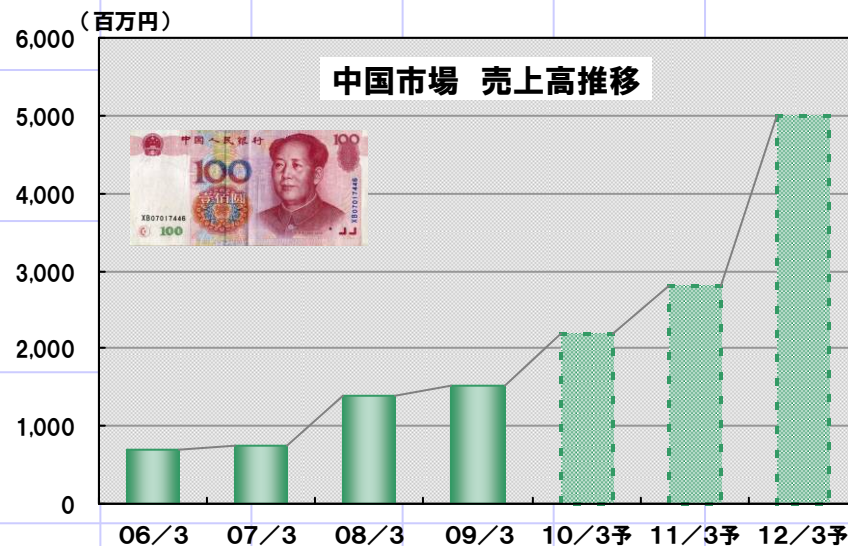
市場

金融機関の営業店数 約19万店
(その内4大銀行で約6万5千店)

今 後

金融機関 営業店での現金処理業務に関する需要への対応。

- ・5大銀行以外への紙幣整理機の展開
- ・システム機の販売体制整備



●リテール市場の動向（欧米）

現 状

需要

小売店でのセルフレジ導入に伴うレジつり銭機の需要拡大や売上金管理の厳正化・合理化による窓口用紙幣入出金機の需要が拡大。

製品



①紙幣入出金機【RBWシリーズ】
・セルフレジ向け



②窓口用紙幣入出金機【RZシリーズ】
・小売店向け

実績

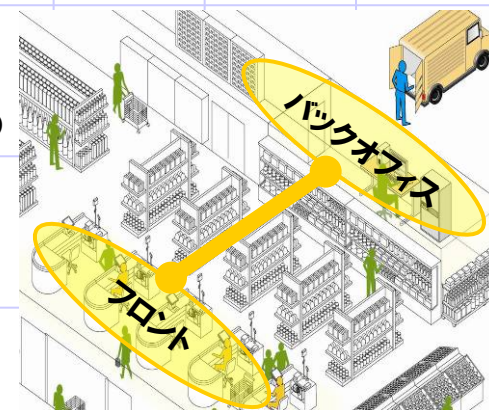
・大手POSメーカーへOEM供給
(ドイツ国内のガソリンスタンド等で稼動)

市場

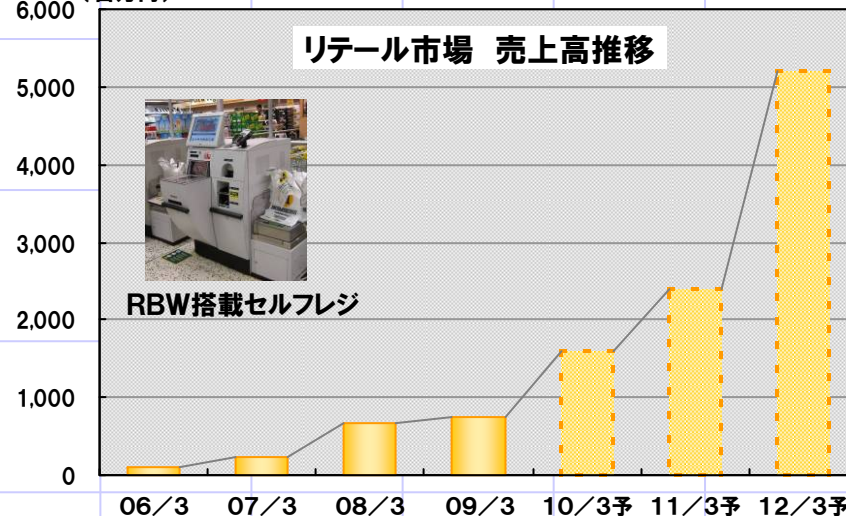
今後、欧米のリテール市場で現金処理機の導入が本格化
競合:SCAN COIN、GUNNEBO他

今 後

店舗全体に及ぶ
現金処理業務の
厳正化・合理化
ニーズへの対応



(百万円)



2010年3月期 業績予想

売上高

景気低迷による投資抑制が続き、前年同期から減少。

利益

設備投資抑制や経費削減などに取り組むものの、前年同期に比べ減少。

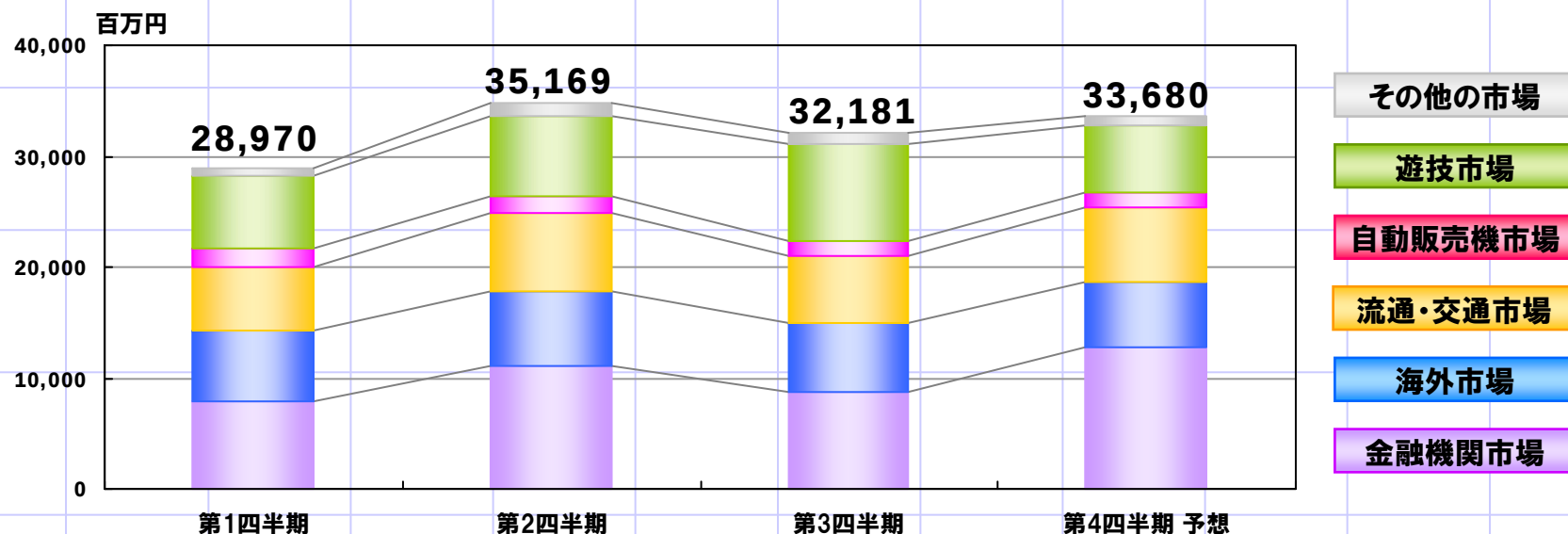
(百万円)	2009年3月期 (平成21年3月期)	2010年3月期 (平成22年3月期)	前年同期比
売上高	145,978	130,000	▲10.9%
うち 保守売上高	31,861 (21.9%)	31,500 (24.2%)	▲1.1%
営業利益	9,426 (9.2%)	6,000 (4.6%)	▲36.3%
経常利益	9,306 (9.7%)	7,500 (5.8%)	▲19.4%
四半期純利益	5,782 (6.2%)	4,500 (3.5%)	▲22.2%

市場別売上高

(百万円)	2009年3月期 (平成21年3月期)		2010年3月期 予想 (平成22年3月期 予想)		
	売上高	構成比	売上高	11月10日 公表値比	前年同期比
金 融	45,829	31.4%	40,000 ➡ 41,000	+2.5%	▲10.5%
海 外	32,784	22.5%	27,000 ➡ 25,000	▲7.4%	▲23.7%
流通・交通	28,191	19.3%	25,500 ➡ 25,700	+0.7%	▲8.8%
自動販売機	7,486	5.1%	6,000 ➡ 6,000	—	▲19.9%
遊 技	26,318	18.0%	28,000 ➡ 28,500	+1.7%	+8.3%
その他	5,370	3.7%	3,500 ➡ 3,800	+8.5%	▲29.2%
合 計	145,978	100.0%	130,000 ➡ 130,000	—	▲10.9%

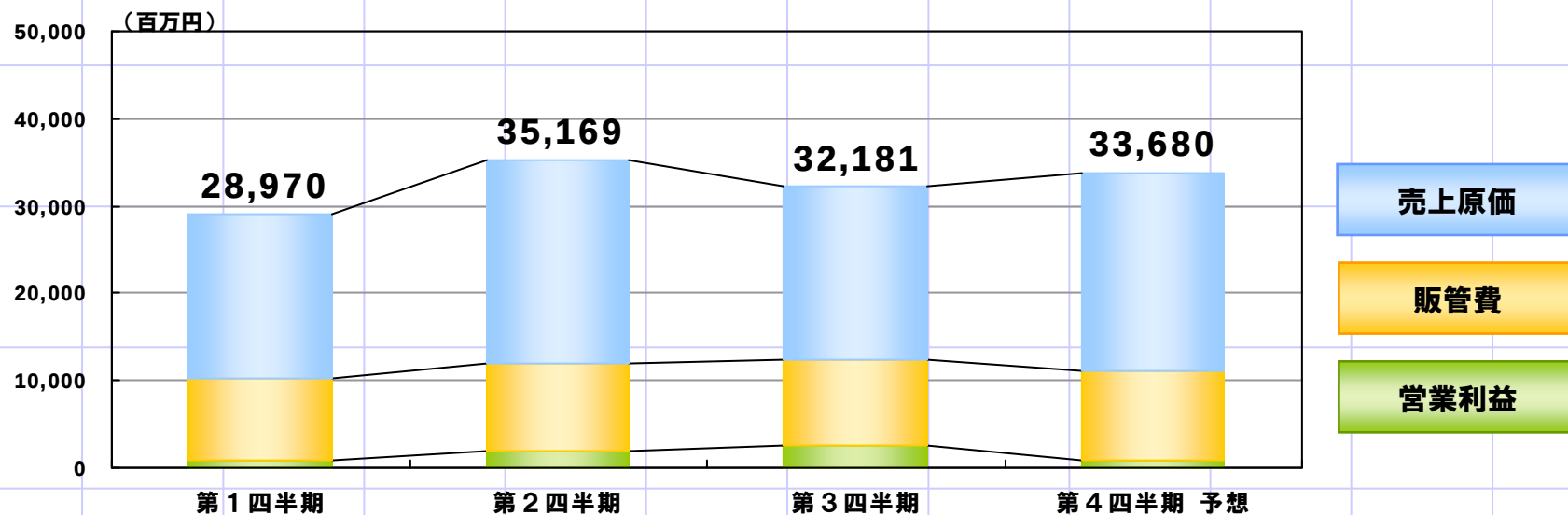
※左側の数値は2009年11月10日公表値

四半期毎の市場別売上高



2010年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期 予想	年間予想
国内金融	7,958	11,504	8,802	12,736	41,000
海 外	6,376	6,686	6,083	5,855	25,000
金融 合計	14,334	18,190	14,885	18,591	66,000
流通・交通	5,680	7,083	6,187	6,750	25,700
自動販売機	1,709	1,483	1,348	1,460	6,000
遊 技	6,448	7,371	8,725	5,956	28,500
その他	799	1,042	1,036	923	3,800
合 計	28,970	35,169	32,181	33,680	130,000

四半期毎の営業利益



2010年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期 予想	通期予想
売上高	28,970	35,169	32,181	33,680	130,000
売上原価 (売上高比率)	18,645 (64.4%)	23,262 (66.1%)	19,849 (61.7%)	22,649 (67.2%)	84,400 (64.9%)
販管費 (売上高比率)	9,571 (33.0%)	10,024 (28.5%)	9,789 (30.4%)	10,217 (30.3%)	39,600 (30.5%)
営業利益 (売上高比率)	761 (2.6%)	1,882 (5.4%)	2,542 (7.9%)	815 (2.4%)	6,000 (4.6%)

資本政策について

●2010年3月期の配当について

利益配分に関する基本方針

将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。具体的には

「連結自己資本配当率1.5%を下限とし、連結配当性向25%以上を目標とした利益配分を行う」

こととしております。

1株当たりの配当金	中間期末 実績	期末 予想	年間 予想
2010年3月期 (2009年5月13日公表)	16円00銭	17円00銭	33円00銭 (配当性向51.6%)

※自己株式の取得につきましても、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するために、適宜実施してまいりたいと考えております。

(ご参考)

1株当たりの配当金	中間期末 実績	期末 実績	年間 実績
2009年3月期	15円00銭	15円00銭	30円00銭 (配当性向36.5%)

事業体制の整備

●連結子会社3社の合併

グローリープロダクツ株式会社

合併の目的

部品加工から組立までの製造機能を集約し、設備の有効活用や物流改善を進めるなど、生産効率の向上により、さらなるコスト競争力の強化を図る。

合併期日

2010年4月1日

合併の方法

グローリー機器株式会社を存続会社とする吸収合併方式で、播磨グローリー株式会社及びグローリーテック株式会社は解散いたします。

合併後の 状況

(予定)

【本社】兵庫県神崎郡福崎町
【事業内容】通貨処理機の製造、販売、修理
【従業員数】約670名
【資本金】8,000万円

＜対象となる連結子会社＞



グローリー機器(株)



播磨グローリー(株)



グローリーテック(株)